

中国海軍ニュース：中国がパキスタンへ輸出する潜水艦模型を展示

漢和防務評論 20190107(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

2018年8月にモスクワで開催されたロシア軍2018軍事フォーラムに、中国はパキスタンに輸出する潜水艦の模型を展示しました。

潜水艦のタイプは中国海軍039B型の輸出型で、前期分の4艘は中国で建造し、後期分の4艘はパキスタンのカラチ造船所で組み立てる、とのこと。中国はパキスタン以外にも同型の海外輸出を狙っています。

KDR モスクワ特電：

中国のCSIS（中国船舶重工集団）は、2018年8月、ロシア軍2018軍事フォーラム（モスクワ）において、パキスタン海軍向けのHANGOR級潜水艦模型を展示した。

このタイプは、中国海軍039B潜水艦の輸出型である。今年署名された中国とパキスタンの協定によると、パキスタンは6艘のHANGOR級潜水艦を獲得するとともに、一部の技術移転を受ける。

カラチ造船所は、後期分のHANGORの建造に携わる。模型を見ると、スターリングエンジンを搭載し、魚雷発射管は、対潜ミサイルを発射できる。このほか曳航ソナー（TOWED ARRAY SONAR）の放出口がある。中国の技術移転先はパキスタンのGIDS（GLOBAL INDUSTRIAL & DEFENCE SOLUTIONS）集団である可能性がある。後者は、SLTA（パキスタン名称）潜水艦の曳航ソナーのライセンス生産を始めようとしている。

カラチ造船所の消息筋は次のように述べている：主要な設備はすべて中国の技術を採用している。将来パキスタンはこれに改良を加えるであろう、と。

このことは、事業全体に西側の会社が参加していないことを意味する。

パキスタンが獲得した中国からの海軍、空軍、陸軍装備は一部西側の技術を使用している。例えば、F-22 ミサイル護衛艦は、ドイツ製の洗濯機等を使用している。注目すべきは：この模型がCSICの展示台に展示されていたことである。

しかし設計は、CSOC（CHINA SHIPBUILDING & OFFSHORE INTERNATIONAL CO.）集団であり、同集団は今年から各種展示会でHANGOR/039Bを含む4種類の600、1000、1500、2500トン級の潜水艦を展示している。

2つの集団がなぜ同時にHANGORを展示したのだろうか？

KDR は次のように分析している：**039B** は、主として武漢造船所で生産されていたが、後期には長興島の造船所で生産が始まった。前者は **CSOC** の隷下にあるが、後者は **CSIC** の隷下にある。

このことは、パキスタン向けに生産される 1 艘目の **HANGOR** は、長興造船所で生産開始されるのであろうか？この判断は重要である。

パキスタン海軍の権威筋は **KDR** の独占取材を受けた際に次のように述べた：中国は、

2018 年からパキスタン海軍に前期分 4 艘の **HANGOR** 級ディーゼル潜水艦を提供する。その後の 4 艘はカラチ造船所で建造する、と。

2022 年までに中国は前記の 4 艘の生産を完了する。

2023 年からはカラチ造船所で毎年 1 艘のペースで組立、

2026 年には協力事業全体を完了させる。後期分の 4 艘については、カラチ造船所が龍骨設置、分割溶接を行う、と。

以上